

参 考 資 料

- これから取り組みたい協働事業の提案・・・・・・・・・・ 35
 - 【平成24年3月策定時】
 - その1〈行政からの提案〉
 - その2〈市民からの提案〉

- 協働に関する市民アンケート調査結果・・・・・・・・・・ 39

- 半田市市民協働推進計画改訂検討会議委員名簿・・・・・・・・ 45

■これから取り組みたい協働事業の提案 その1 〈行政からの提案〉

【平成24年3月策定時】

これから協働で取り組めたら、よりよい結果が得られるのではないかとと思われる「行政からの提案」事業をいくつか紹介します。

提案(1) ふくし相談窓口(仮称)

内 容	地域住民同士で、心配ごとや困りごとなどを相談し合える仕組みとして、「ふくし相談窓口(仮称)」を開設する。相談活動には、所定の講座を修了した地域住民に携わっていただく。気軽に集まれる場所で相談できるよう、将来的には全小学校区での開設を目標としている。
想定される協働のパートナー	地域住民、半田市社会福祉協議会など
期待される協働の効果	身近な場所に、気軽に相談できる窓口ができることで、“どこに相談したらよいかわからない”といった早期の段階から解決の糸口をつかめるようになる。また、地域の相談窓口で、地域で解決できること、専門機関などの相談先につなげることといったように、相談内容を振り分け、情報提供などの適切な対応がとれるようになることで、解決の迅速化につながる。 地域住民同士のつながりや支え合いがさらに進み、安心して暮らせる地域づくりにつながる。
今後の予定	平成23年度から、地域福祉活動に興味や関心を持ち、意欲がある方を対象に、地域福祉に関する様々な分野の講座などを実施し、福祉人材の育成に取り組む。その中から「ふくし相談窓口(仮称)」で相談活動に携わっていただき、平成27年度までにモデル地区での試行、平成31年度までに全小学校区での開催を目指す。
目標年次	平成31年度

提案(2) 地域人材活用事業

内 容	学校(園)にて、授業その他の時間に、優れた知識や技能を有する地域の方々の支援を受け、児童生徒が多様な知識や経験を学ぶ機会を増やす。
想定される協働のパートナー	市民、自治区、市民活動団体、市内事業所
期待される協働の効果	地域の方々から話を伺うことにより、児童生徒が地域の歴史や習慣を直接学ぶことができ、郷土を愛する心を育てることができる。 地域住民の参加により、地域全体で学校の様子を見守ることができる。 先生と地域住民の交流の機会が増え、連携の強化が図れる。
今後の予定	各学校(園)の状況に合わせて、総合学習や社会の時間など、可能な時間から実践する。
目標年次	平成28年度(実施済み)

提案(3) はんだっこフェスティバル

内 容	地域で子育て支援をする個人や団体、学生ボランティア、はんだっこサポーターの協力を得て、親子で楽しめる催しや、体験ブース・展示など行い、子育て支援者や市民活動団体と子育て中の親子とのつながりを目的とするふれあい交流会の開催。
想定される協働のパートナー	子育てボランティア・市民活動団体・はんだっこサポーター・同胞園・学生ボランティアなど
期待される協働の効果	子育て支援にかかわる個人や団体がつながり、地域での子育て支援の充実を図ることができる。
今後の予定	同胞園や、はんだっこサポーター、子育て支援団体等に、実行委員会への参加について依頼し、実行委員会により企画・運営する。
予定年度	平成25年度(実施済み)

提案(4) 「はんだ市報」発行事業

内 容	市民ボランティアにページを割り当て、市民の編集による市民のための情報発信を行ってもらおう。また、現在の「あんなこと こんなこと」など、まちの出来事やイベントを紹介するコーナーにおいて、市民からの写真提供を募る。
想定される協働のパートナー	市民(団体)
期待される協働の効果	市民が直接編集を行うことで、市民目線による市民が求める広報紙を作り上げることができる。また、市民が参加(編集や写真提供など)できる仕組みをつくることで、より身近で愛着のある広報紙を作り上げることができる。
今後の予定	実施計画を策定する。
予定年度	平成24年度～平成25年度(実施済み)

提案(5) 小中学校、保育園、幼稚園での本の紹介、読み聞かせ

内 容	ボランティアとともに小中学校、保育園、幼稚園などの施設に出向いて児童生徒や園児を対象に、本の紹介や読み聞かせを行う。
想定される協働のパートナー	本の読み聞かせボランティア
期待される協働の効果	子どもに本に対する親しみを持ってもらうことで、子どもが本を読む楽しさを知るきっかけとなる。
今後の予定	平成24年度からの実施を目標に、ボランティア及び対象施設と打ち合わせを行っていく。
予定年度	平成24年度(実施済み)

提案（6） ローカルエコアクション事業

内 容	地球温暖化を始めとした様々な環境問題に適切に対応するため、市民、事業者、NPO、行政のそれぞれが主体的に環境活動を実施できるような取組みに対するインセンティブを付与する仕組みづくりを、市民や事業者の方と共に検討する。
想定される協働のパートナー	市民、事業者
期待される協働の効果	本事業の設計段階から市民や事業者に関わっていただくことで、行政だけの視点に偏らない効果的かつ実効性のある仕組みづくりが可能となる。
今後の予定	事業内容を検討し方向性を決定したうえで、早急を実施する。

提案（7） 公園リニューアル等ボランティア

内 容	遊具の塗装、柵の設置など公園施設の修繕や設置を地元で行っていただける場合は市から必要な材料を提供する。
想定される協働のパートナー	市民、自治区、市民活動団体など
期待される協働の効果	住民が主体的に自分達の公園を管理することになり、公園に対する愛着が深まるとともに公園利用の促進につながる。また、公園施設の充実及び維持管理費などの軽減が図られる。
今後の予定	自治区や市民活動団体などに話をし、実施していただける内容を把握し予算化していく。

提案（8） 公園管理の出前講座

内 容	公園の除草の方法、樹木の剪定、花や木の育成と管理など専門的な知識が必要な管理については、造園業者などの専門家による実地研修などの出前講座を実施する。
想定される協働のパートナー	市民、自治区、管理団体、造園業者など
期待される協働の効果	公園管理の方法を身につけることで、公園の維持管理が良好なものとなり、きれいな状態を保つことができる。
今後の予定	造園業者の理解を得る中で、地元の要望に沿って公園管理の出前講座を実施する。



■これから取り組みたい協働事業の提案 その2 〈市民からの提案〉

【平成24年3月策定時】

策定作業部会の市民部会員が、これからこういったことを協働で取り組めたら、よりよい結果が得られるのではないかと思う事業を提案します。
一緒にやれたらもっとよくなることはたくさんあります。みなさんからの提案をお待ちしています。

提案（1） 思いやりの「しゃべり場」づくり

内 容	空き店舗や公民館など身近な場所を、年齢や性別に関わりなくだれもが自由に集い、情報の交換や、情報の発信などが行える地域の拠点として整備し、地域の語らいの場「しゃべり場」をつくる。
想定される協働のパートナー	地域のすべての市民
必要性や期待される協働の効果	地域みんなが参加することにより、地域の人たちのつながりを深め、助け合いや思いやりの心が生まれ、暮らしやすい温かい地域となり、よりよいコミュニティがえられる。 年齢や性別に関わりなくみんなが集い語らうことで、地域のいろいろな問題を共有し、様々な知恵やアイデアを出し合い解決する力が育まれる。

提案（2） まちづくりのための「サロン」の運営

内 容	自治会や地域の協議会など、既にある組織を活用するなか、行政に対して自分たちの意見を伝える仕組みとして、まちづくりのための「サロン」などをつくる。
想定される協働のパートナー	地域のすべての市民、行政
必要性や期待される協働の効果	行政が事業や施策を進めるときに、市民の意見を聞く機会として市政懇談会や説明会などを開催したり、アンケート、パブリックコメントなどを実施されるが、そのような場で発言できる人はあまり多くはない。また、行政全体で行うサロンやワークショップなどは、事業毎に実施されることから、その事業の終了に伴ってサロン等も終了してしまう。 いろいろな立場のできるだけ多くの人が意見を言える機会が、持続的に設けられるようになることが必要である。 行政と一緒に協働で持続性のあるサロン等を立ち上げ、必要なときに話し合いの場を持ち、みんなが気軽にたくさん意見が言える仕組みをつくる。出された意見の中からみんなが共感できたものを行政に伝えることで、より多くの市民の意見を市政に反映できるようになる。 市民の意見を集める方法としての機能に加え、地域で話し合う仕組みができることで、地域組織の活性化や地域のつながりが深まることも期待できる。

■平成28年度 協働に関する市民アンケート調査結果

I. 調査の概要

○調査目的

本調査は、平成24年4月より開始した「半田市市民協働推進計画～みんなでいっしょに大作戦～」の改定に向け、計画の進捗状況等を把握するため実施したものである。

なお、本アンケート調査については、「第6次半田市総合計画」の進捗状況を把握する「まちづくりの指標についての市民アンケート調査」にあわせて実施したものである。

○調査方法：18歳以上の市民を3,000人無作為抽出し、郵送配布・郵送回収で実施

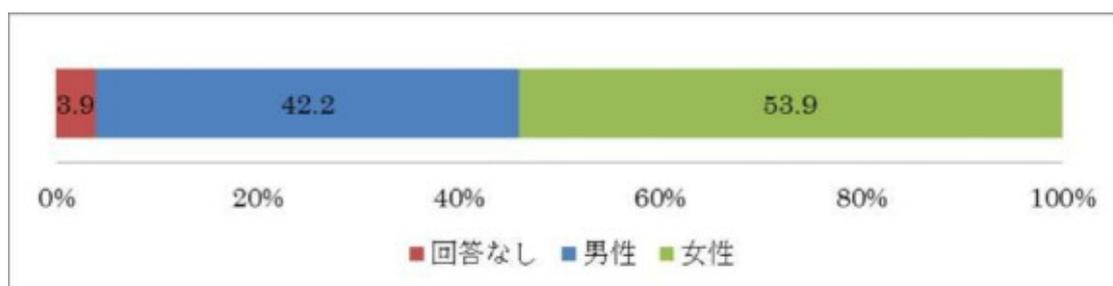
○調査時期：平成28年5月

○有効回答者数：1,333人（有効回収率：44.4%）

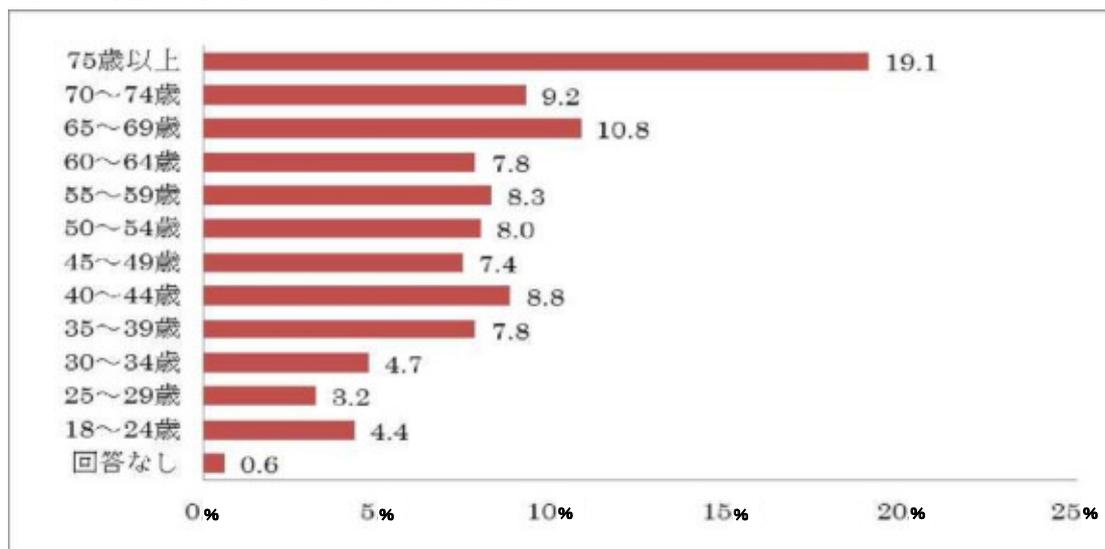
II. 調査結果

1. あなたのことについて

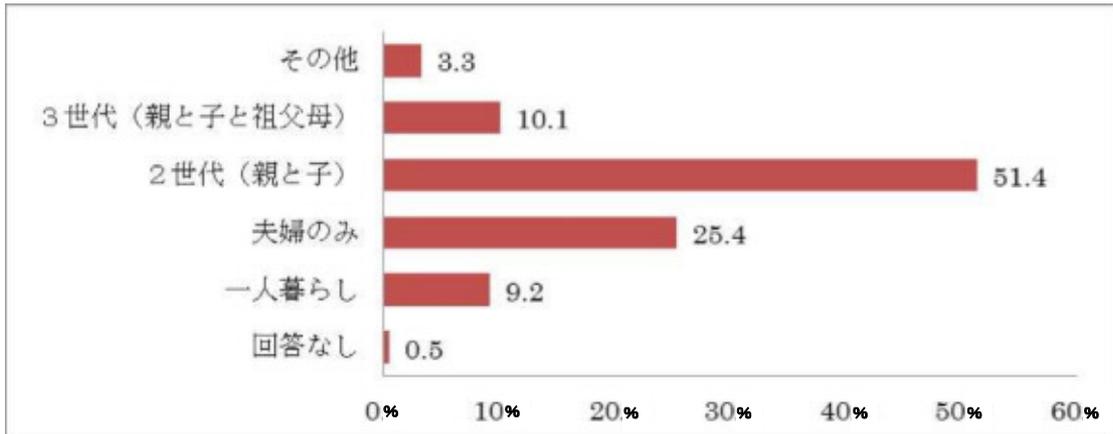
問1 性別



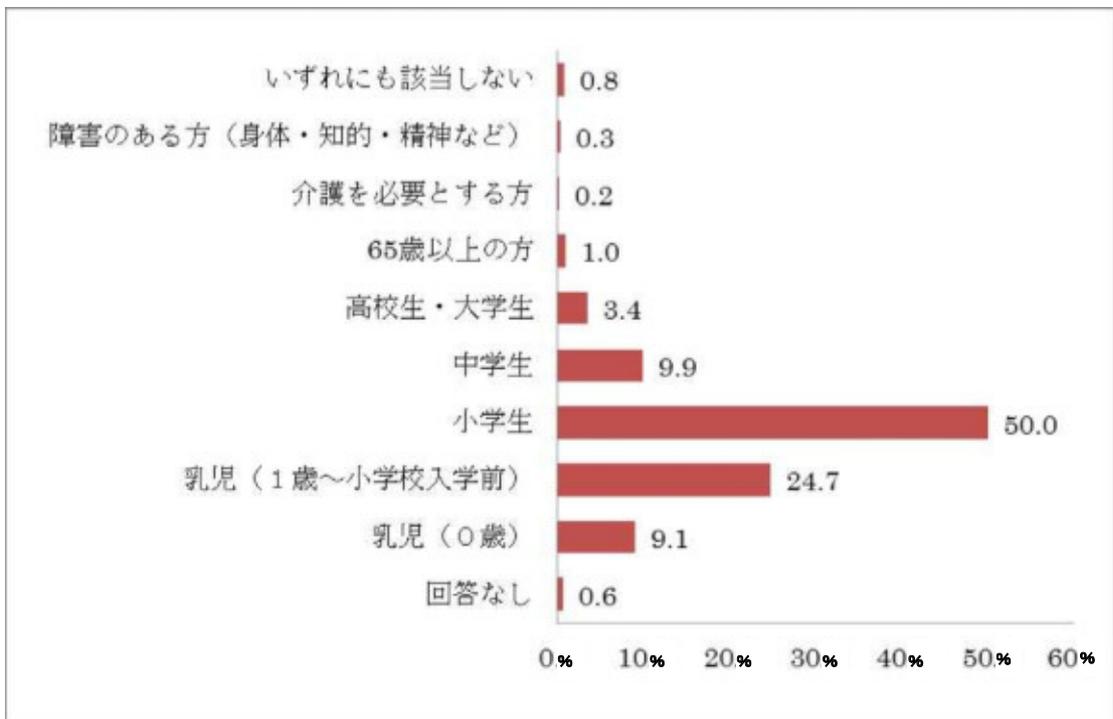
問2 年齢（平成28年4月1日現在）



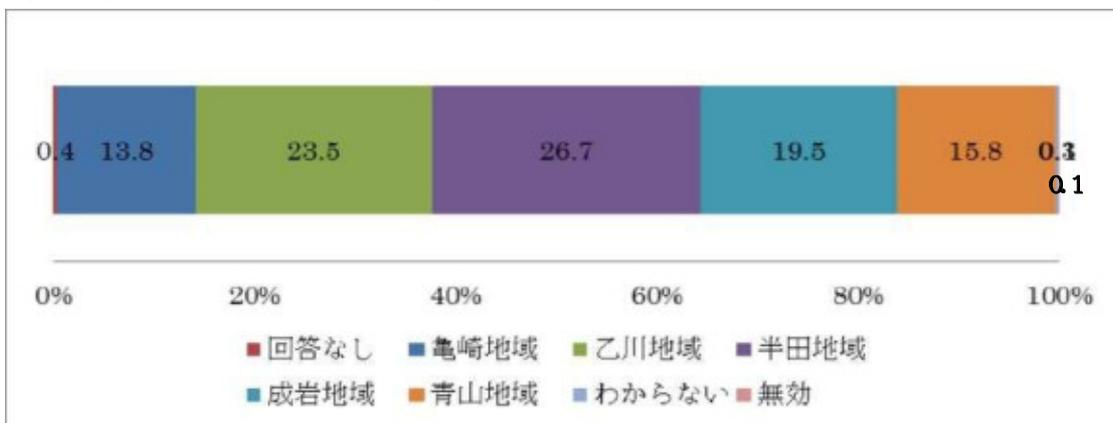
問3 現在一緒にお住いの家族構成



問4 同居している家族 (あなたを含む)

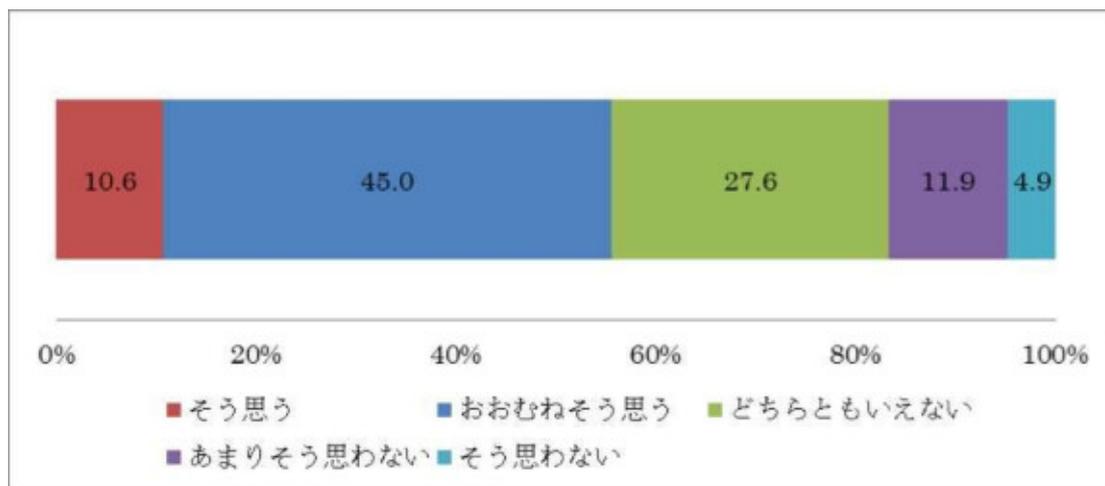


問5 現在お住まいの地域 (中学校区)

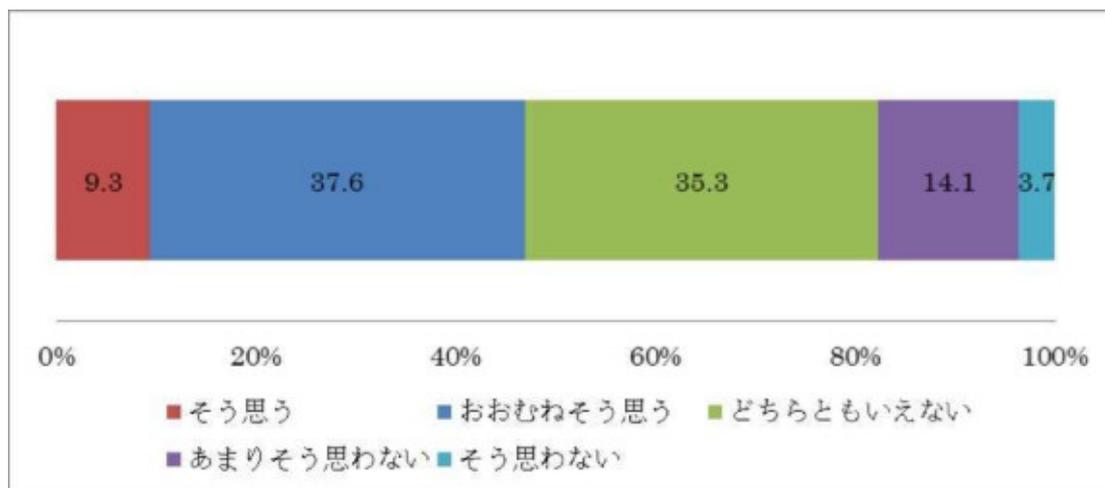


2. 市民協働について

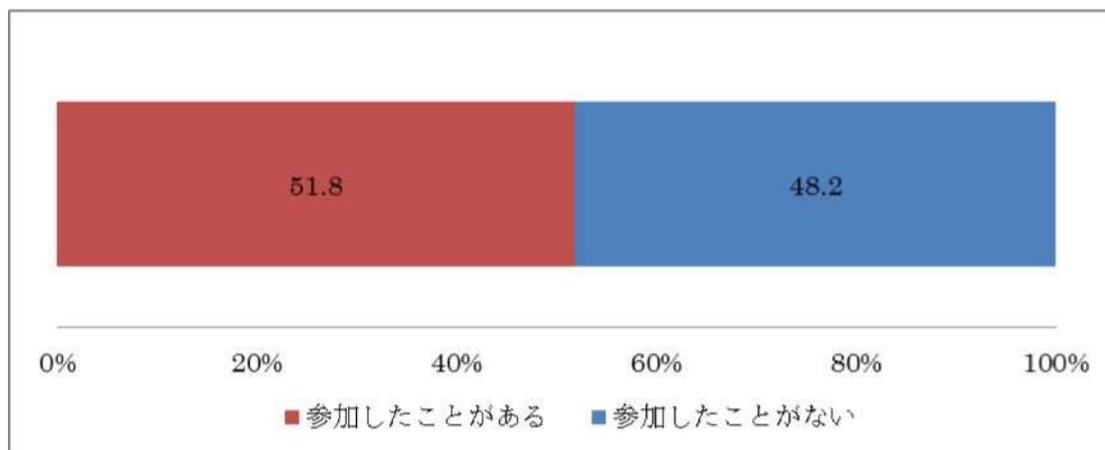
問6 あなたは、半田市の市政に関する必要な情報が提供されていると思いますか。



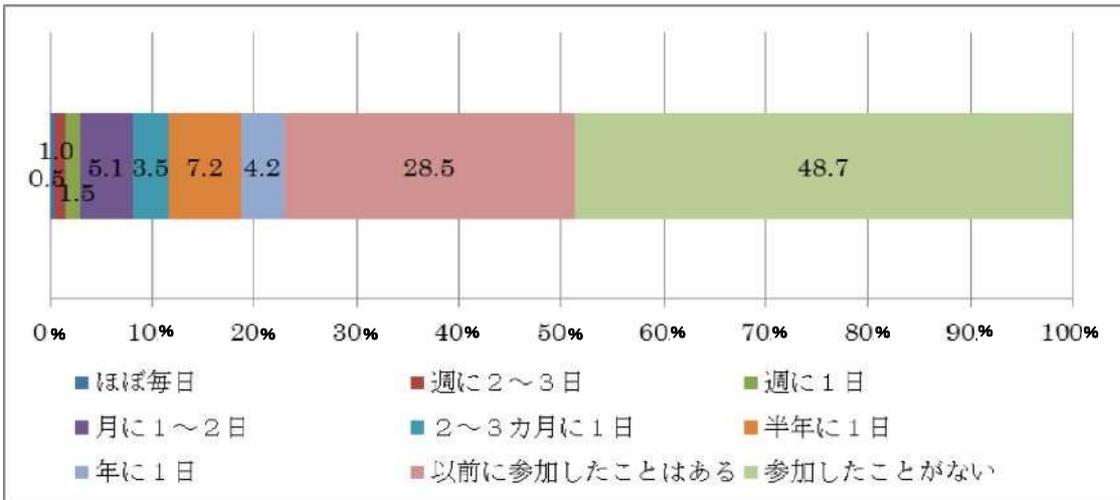
問7 あなたは、半田市は市民が中心となって協働のまちづくりが進められているまちだと思いますか。



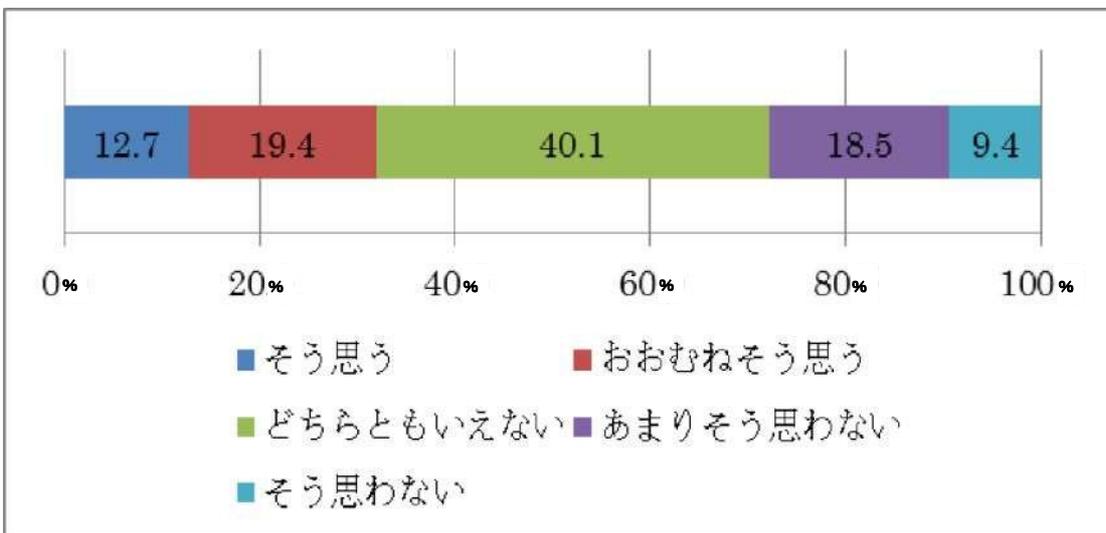
問8 あなたは、この一年間にコミュニティや自治区の活動に参加したことがありますか。



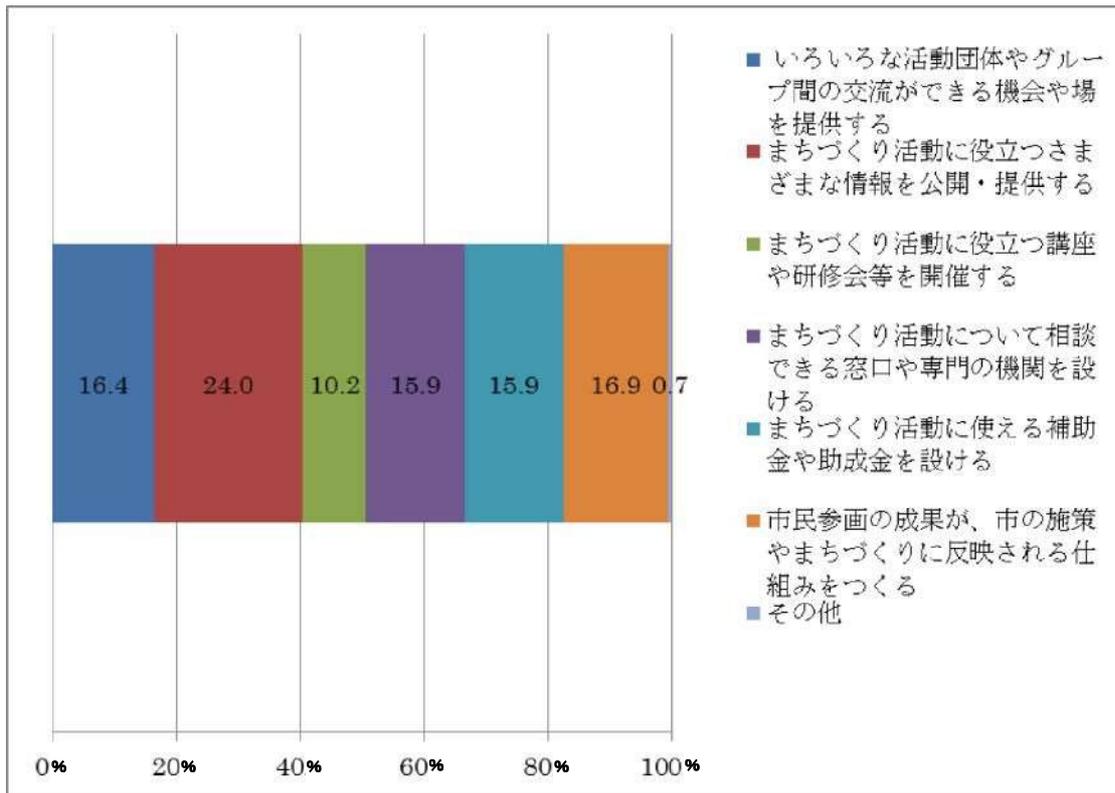
問9 あなたは、ボランティアや市民活動（コミュニティや自治区の活動を除く）にどのくらい参加していますか。



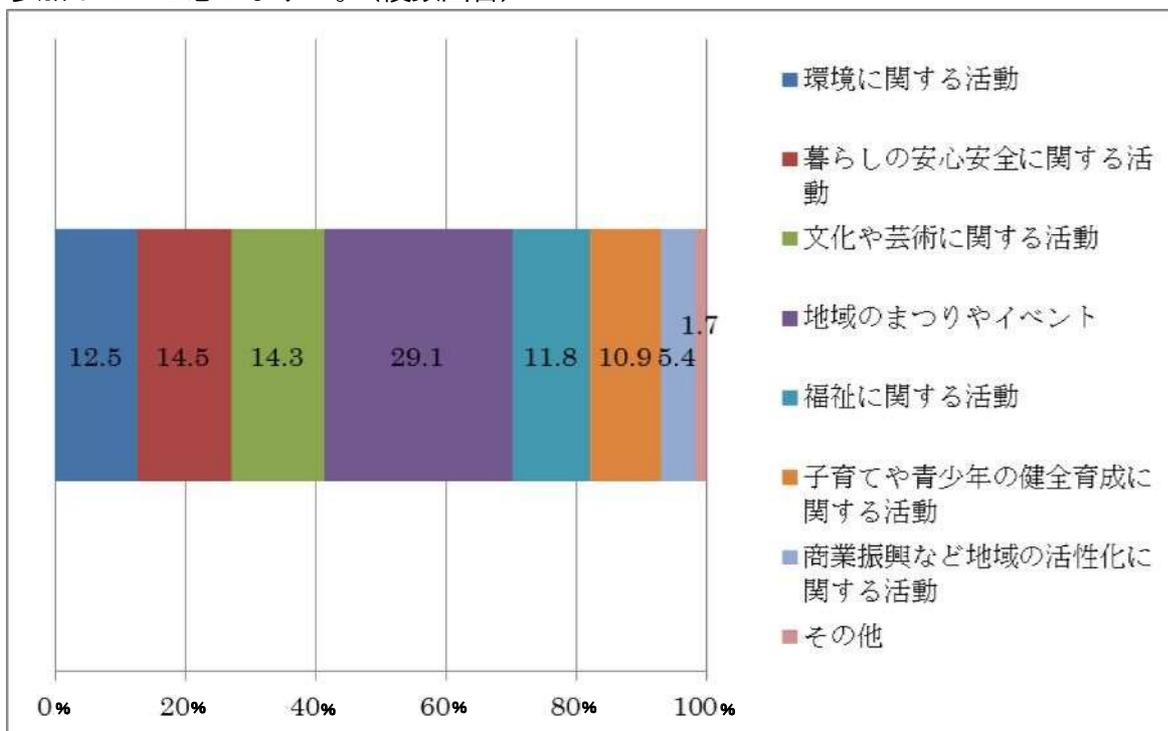
問10 あなたは、公共サービスはすべて行政が行うべきだと思いますか。



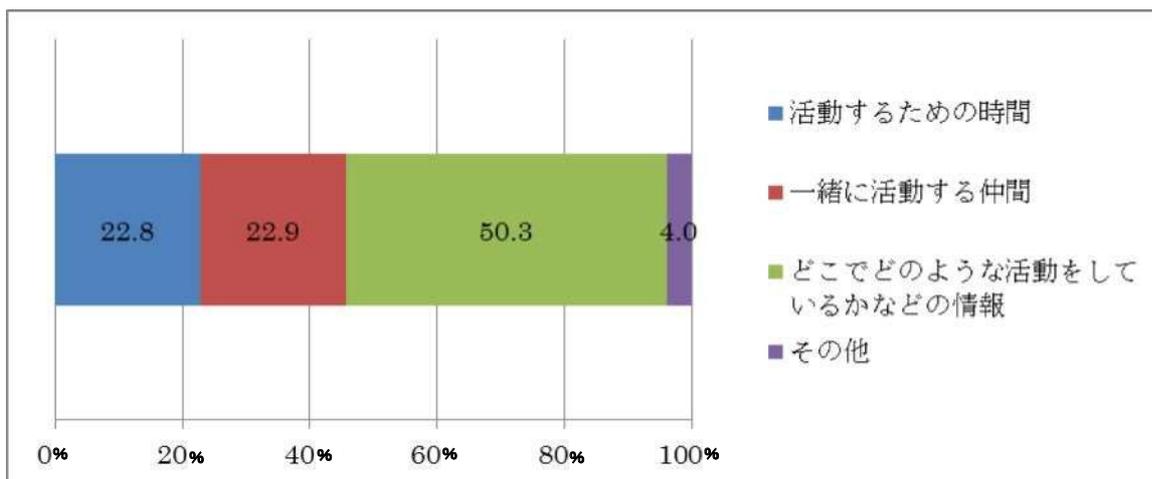
問1 1 あなたは、協働によるまちづくりを進めるために、行政は具体的にどのようなことをすればよいと思いますか。（複数回答）



問1 2 あなたは、次のような活動に参加したことがありますか。または、今後、参加したいと思いますか。（複数回答）



問13 あなたが、今後（さらに）活動に参加するために何が重要だと思いますか。
※問12の活動などに重要だと思うものに○をお願いします。



■半田市市民協働推進計画改訂検討会議委員名簿

役 職	氏 名	所属団体等	備 考
委員長	千頭 聡	日本福祉大学国際福祉開発学部教授	市民協働推進計画策定委員会 委員長
委 員	小栗 吉昭	半田市区長連絡協議会	
委 員	松見 直美	特定非営利活動法人半田市観光協会事務局長	市民協働推進計画策定委員会 委員
委 員	辻 正幸	はんだまちづくりひろば運営委員長	
委 員	池田 美恵子	知多信用金庫企画部地域貢献課長	
委 員	水野 節	半田市社会福祉協議会事務局長	
事務局	加藤 明弘	市民協働課長	
	三輪 象太郎 (水野 恵子)	市民協働課主幹	
	藤井 寿芳	市民協働課副主幹	

() 内は前任者